

第66回那覇地区中学校新人軟式野球競技大会要項
(第30回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会那覇地区予選会)
(第40回全日本少年軟式野球大会沖縄県予選会)

1. 主催 那覇地区中学校体育連盟
2. 共催 沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、浦添市教育委員会、久米島町教育委員会
3. 後援 那覇地区中学校校長会、那覇地区PTA連合会、沖縄県野球連盟那覇支部
4. 期日 令和5年1月21日(土)、22日(日)、28日(土) 予備日1月29日(日)
5. 会場 令和5年1月 21日(土) 9:00(1回戦) 城北中学校(3)、神森中学校(2)
令和5年1月 22日(日) 9:00(2回戦・準々決勝) 浦添中学校(3)、神森中学校(3)、金城中学校(3)、仲西中学校(3)
令和5年1月 28日(土) 9:00(準決勝・決勝戦・代表決定戦) 浦添中学校(2)、仲西中学校(2)
令和5年1月 29日(日) 予備日 城北中学校()、浦添中学校()、神森中学校()、金城中学校()、仲西中学校()
6. 参加資格 (1) 那覇地区中体連加盟校に加盟している学校の生徒であること。
(2) 学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3) 1チームは、選手25人、記録員2人、監督1人、コーチ2人の計30人とする。
※但し合同チームに関してはその限りではない(監督・コーチは最大4名以内とする。)
(4) 選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。
教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。
但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(5) 硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(6) 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
(7) 那覇地区中学校体育連盟が主催する本大会に出場するチーム・選手の引率者、監督、部活動指導員、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であること。校長はこの点を確認して、大会申請書を作成する。なお、外部指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。
7. 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部
大浜淳一(仲西中)石原孝之(松城中)渡嘉敷光範(仲井真中)仲村竜太(浦添中)宮國稔基(城北中)
久高陵太郎(首里中)安里博文(仲西中)一安裕次郎(上山中)宮良淳(神森中)野原大輝(浦西中)大城征一郎(古蔵中)
多和田真司(寄宮中)比嘉政人(石田中)仲本政毅(寄宮中)下里洋介(松島中)山城千尋(松島中)島袋剛(浦西中)
大城裕樹(首里中)座波清匡(鏡原中)高良政之(神原中)泉佑之介(神原中)瑞慶山良樹(神森中)照屋駿介(興南中)
當間栄太(仲西中)比嘉眞仁(安岡中)仲村俊哉(昭葉中)比嘉峻也(小禄中)
- 運営委員 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
10. 競技規則 2022年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、大会細則を適用する。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
・大会中の1日の投球制限・・・100球
・1週間の投球数・・・350球
※試合中、規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃を完了するまで投球できる。
11. 大会規定 (1) トーナメント方式とする。
(2) 試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差5回以降7点差とする。決勝戦も適用する。
また、日没・降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンテッドゲーム)を適用する。
(3) 延長戦の8回以降からは、タイブレークを適用する。タイブレークは**無死1、2塁**の状態継続打順で開始する。
勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で繰り返し、原則10回までとする。10回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。
12. 使用球 全日本軟式野球連盟公認ケンコーボールM号球とする
13. 組み合わせ (1) 令和4年12月14日(水)17時～ 浦添市立浦添中学校コンピューター室(2階)にて抽選行う。
14. 表彰 (1) 優勝チームには優勝旗及び賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。
また、個人賞として、殊勲賞・敢闘賞・打撃賞を表彰する。
(2) 個人賞は決勝進出校から選出する。また、打撃賞に関しては規定打席
(1試合×2打席以上:2回戦から決勝戦までとする)に達している選手で、上位3人を選出する。
15. 参加申し込み (1) 令和4年12月10日(土)のスポーツグチ杯準決勝・決勝までに専門部長へ回答する。
(2) 大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに学校長の捺印を受け、原本1部、コピー4部を、令和5年1月6日(金)までに地区専門部長に提出する
(3) 選手変更届は、那覇地区中体連野球専門部HPよりダウンロードし、校印を押印して、
原本1部、コピー4部を1月21日(土)7:30に各球場長へ提出する。
(コピー4部は球場長からサインをもらい、3部は、監督が保管しておいて、翌日以降、会場変更になった場合、その会場の球場長に提出する。)
※大会冊子作成のため申込用紙ファイルを那覇地区中体連野球専門部HP宛(nahabaseball@yahoo.co.jp)に令和5年1月6日(金)16:45までにメールを送信すること
16. その他 (1) チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2) 大会出場中の選手の傷害は、大会本部において応急処置を行い、後は各学校で処理する。
(3) 今大会の上位3チームには、第66回沖縄県中学校春季軟式野球大会(3/4～3/5)への出場資格を与える。
(4) 第30回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会で優勝したチームの登録選手の一部は、第65回那覇地区中学校軟式野球大会での2重登録は認めない。

第66回那覇地区中学校新人軟式野球競技大会特別規則
(第30回沖縄海邦銀行杯争奪県中学校軟式野球大会那覇地区予選会)
(第40回全日本少年軟式野球大会沖縄県予選会)

1. 試合時間 (1) 試合は1時間30分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(5部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダッグアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。
登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
(2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) コロナ感染拡大防止の為大きな声を出しての応援は慎む。(太鼓・鳴り物は禁止)
(2) 今大会、有観客試合とし、保護者・控え部員を含め的人数は制限しないとする。ただし、感染症対策を十分に行うこと。
(3) 会場入りする名簿を作成する。その名簿は、試合終了後、本部に提出すること。チームで万が一感染症が発生した場合は速やかに追跡調査ができるように、大会終了後、専門部長で保管する。
(4) 応援する保護者・控え部員は、ネックストラップ型の指定されたID(校印付き)の着用を義務づける。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、2イニングに1度行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は 7イニングで3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、毎イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) バットリング、トレーニングバット、マスコットバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(2) 手袋は原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(5) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)、SGマークが入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
(6) リストガードは使用できない。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(ランナー無し・・・12秒以内に投球、ランナー有り・・・20秒以内に投球 ※詳細は競技者必携にて確認)
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) 背番号は1～20番を使用し、原則としてポジション順とする。
(2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。
尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(3) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(4) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(5) 球場内における試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(6) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(7) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(8) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(9) コロナウイルス感染拡大防止のため手洗いうがいの徹底及びマスクの着用を奨励する。
(10) 本大会は新型コロナウイルス感染症対策として、別に定める「那覇地区中学校体育連盟主催大会実施上の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」及び「各競技新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に則り実施します。
参加者及び全ての関係者は両ガイドラインを遵守し、必要書類を提出して大会に参加してください。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。